No.３６

芥川だより

編集発行人　下村嘉明
発行所

☆　着物から服へ
着物から服を仕立てます
高槻市芥川町２－１４－３
℡072－681－8870

発行日＊＊＊2009年8月1日　　e-mail:akutagawa_dayori@yahoo.co.jp
皆様からの投稿をお待ちしております
http://www.justmystage.com/home/akutagawa/

＊＊＊＊＊＊＊＊　一部５０円です　＊＊＊＊＊＊＊＊

未だ大志消えず心を悩ます

茨木を通る１７１号線の道脇に、二宮金次郎の像が幾体も解体され廃棄物として捨てられるように置かれていた。私が通った小学校の校庭にも、柴を背負い本を読む姿の立派な金次郎の像が建っていたものだ。当時、教科にあった道徳の時間は名ばかりで、いつも生徒達だけでソフトボールをして、先生は職員室いるような気楽な時間であった。

そんな訳で道徳という勉強をした憶えは余り無いのだが、恩師まつおかはんの批判的精神の影響か何事に対しても「なんで？」という懐疑心が私に芽生えていた。「なんで、そうなるん？」と聞かずにおれない人間になった。先生に「なんの為に、先生をしとってん？」とたずね「生活の為や」「他に無かったからや」と聞くと「なーんや、そうなんか」もっと感心するような答えはないのか、と思ったものだ。

「人はなんで生きているのか」。きわめて答えにくい問いかけだ。母に聞けばいつも「そんなしんき臭い話はキライや」と言って相手にされなかった。小学生の一つ覚えのような問いかけかもしれない。この歳になっても、相変わらず同じ事を考えている。あれから随分本も読み話も聞いたが、あの時に不思議に思った疑問が解決できていない。どうして戦争は無くならないのか等。こんな事を考えても答えは見つかりそうにも無いから、日々の生活や仕事の事を考えておれば良いのであって、「人の生き死に」のような事は神様の仕業と割り切ればいいのだ。未練がましく「なんで？」という事に執着するとろくな事にならないかもしれないが、捨てきれない。

「芥川だより」を三年間も続けられたのも幼き頃に抱いた疑問が未だ消えず、自分の心を悩ましているからかもしれない。母はそんな私を「おまえはおかしな考えを持とるさかい。気をつけなあかんで」と言う。目先の仕事を理屈を言ってサボるクセを母は心配していたのだろう。そんな母の心配をよそに、私は「理屈ちがうで、わからんのかなあー」と何度も問答してきた。そんな母も、「芥川だより」だけは素直に喜んで読んでくれている。先輩から言われた「母に送る手紙のように書け」を守って発行し続けたい。

連載　爺捨て山９

梵店主

街の片隅に男達の居場所を作れないかと考えている。退職したりリストラされた男の溜まり場だ。

女の人は、買い物だの婦人会等と誰彼無しに話し相手を見つけてストレスを発散できるが、男はそうはいかない。着る物ひとつ見ても、男の人でオシャレに気を使う人は稀である。着る服の色合わせやデザインを考えて毎日ファッションを楽しんでいる男の人は何人いるだろうか？

当店へ来られる男性の方もきわめて少ない。その上、金をかける事を躊躇われる。こんな調子が全ての生活面で男達を支配している。

男は組織の中ではそれなりに力を持ったが、組織を離れて独りになると弱い。「爺臭い、汚い、世間知らず」家族から言われると益々意固地な爺さんになる。

金を稼がなくなった男の気持ちの哀れさを、独りで抱え込んではいけない。そんな者たちで群れを作るのだ。何でも言える仲間を作り始める。男達だけの、居場所を見つけられない者たちが、気楽に週に一度でも集まって、酒をちびりちびりやりながら話を出来る居場所。

群れを作ると男達は、力を持つようになるに違いない。

風神の聖岳 ③

梵店主

よっちゃんは、山で救助の手助けをした事はあるが救助を求めた経験はない。T大のパーティーの申し出に飛びつきたかったのだが声が出なかった。どういう訳だか、T大の部員達はよっちゃんの方には来ず、山猿達に向って歩いていってしまった。よっちゃんは、恐怖で萎縮してしまった心と身体をザイルで確保して傾斜が緩くなっている尾根まで連れて行って欲しかったのだ。

離れた場所にいる山猿やM蔵達のグループの誰かがT大の救助手伝いの申し出に対して「ザイルを貸してもらえば大丈夫です…」というような返事をしている声がした。T大のメンバーはザックからザイルを出して由ベエに渡して降って行った。よっちゃんは「ちょっと待って！助けてえなあ」と声にはならないため息をついた。

「事故を起してしまったのだ。絶対に起してはいけない遭難事故が起きたのだ。よっちゃんにとって下級生である二年の山猿が滑落負傷したのである」。この事実がよっちゃんの朦朧とした意識を現実に引き戻した。恐怖に慄き、立ちあがることさえ出来なかった気持ちをM蔵の「しもやん、何してるンや。早く来い」という声で、弱気になったよっちゃんを勇気づけたのだ。怖いが、早く立って急な斜面を歩いて皆のいる尾根へ行き山猿の負傷の程度を調べ救助方法を考えなければいけない。

頭では理解するものの、死にそうになった雪氷の急斜面を下るのは心底怖い。多分下で見ている部員達には、よっちゃんが味わっている気持ちは理解できなかったに違いない。ピッケルが折れて使えないのでアイゼンをけり込み下った。泣きたくなるような怖さにビビリながら、時間をかけて皆のところまで降りてきた。

山猿の血の付いた顔や腕を見た時、「えらい事になったなあ。親爺さんにどう謝ったらええんやろ」そんな事を思いながら「どうや、大丈夫か？」と聞いた。

「歩けるか？ ゆっくりでいいから聖岳の西尾根を下ろう。夏山合宿で何度も下った尾根だから、夜になっても歩ける。」

無線機を携帯しているが、我々が近距離で連絡しあう性能しかないから下山してどこかの電話を借りて、京都の監督に連絡を入れて指示を受けなければいけなかった。携帯電話など無い時代であった。

よっちゃんの山岳部は遭難時の対応策は過去の経験から素早く動く態勢が出来ていた。第一報が、監督に入り次第、大学に遭難対策本部を作ると同時に、若手のOBが最低5名ほど直ぐに現場に直行出来る態勢が取られていた。遭難事故はいつ起きるか分からないから、現役部員が山に入る計画書が届けば、いつ何時でも山に行けるように山の装備を揃えていた先輩も多くいた。冬山の捜索隊は、1次・2次・3次と立て続けに出す時がある。

遭難の報を電話で知らされば、会社勤めでも直ぐに退社して駆けつける。自営業の人はもっと大変である。

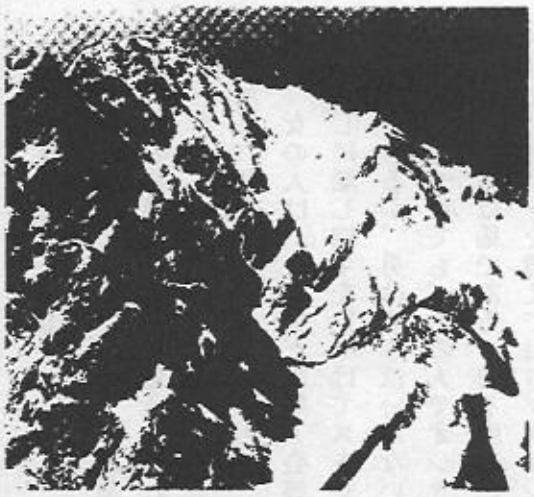
「これが最後やで、今回だけはいかないかんやろ」と己を納得させ、身の回りの人を説得し、たとえ大変な損失が予想される商売中など苦しい状況下でも山岳部の後輩の為に硬い絆でもって駆けつけるのである。

だから、安易に遭難は起せないし救援隊を召集する事には慎重にならざるを得ない。

そんな事情もあるが、とにかく早く山猿を病院に連れて行き精密検査を受けさせねばならない。

山猿の荷物はみんなで手分けして持ち、山猿に負担の無いようにして歩かせる。よっちゃんは一年独りを連れて先行して電話のある所まで急ぎ、京都の監督へ知らせる為に先行して下った。夏の西尾根は簡単であるが、雪のある尾根は別物である。昼過ぎから下り始めて夜通し歩きダム工事の飯場小屋に辿り着いたのは、明け方であった。走るように下ってきたのだが時間がかかった。一刻も早く遭難の知らせを伝えなければいけない。山猿の手当ても早くしなければならない。よっちゃんの心は焦る思いで一杯であった。

川岸に建つ小さな小屋は、朝靄の中に静まり返っていた。誰かいたとしても寝ているに違いない。見ず知らずの人を叩き起こすのは抵抗がある。しかし、そんな躊躇は許されない。よっちゃんは思い切って、入口と思われるガラスドアを叩いた。中から何の反応もない。誰もいないのだろうか。いなければ、さらに下流へ下り人家を探さなければならない。思い切って大きな声で「お願いします！起きて下さい！」と叫びながらドアをドンドン叩き続けた。



連載　仏と共に　③

出家2

上原むつえ

私は幼い頃から霊感の強い子供であったらしい。小学生の時に、近所の人が行方知れずの大騒ぎになった時など父親に、「何処其処の草むらの陰に幻影が見える」と言ったらしい。その言葉の通りの場所を捜索したら遺体で見つかり褒めてもらったこともあった。

また、小学校の二年生の時だと思うが、叔父が若くして亡くなった時の葬式での思い出がある。大きな式で多くの僧侶たちが唱える読経が、美しいハーモニーに聞こえ強い感銘を受けた記憶が残っている。

私が父の悲願でもあった医者の道を、家族の誰にも相談することなく独断で頓挫させて仏門にはいるような決断が許されたのは、理解ある父親のおかげであったと思う。当時は考えなかったが、経済的にも非常に恵まれていたのだと思う。

お金が無くて日々の生活に困るようなことは、出家した後もなかった。その都度、父は会いに来てくれ生活費を渡していてくれたので、悲壮感が漂う尼僧ではなかった。

むしろ、当時の平均的な女性より自由であったと思える。出家ということで、家からの束縛から一切解放され何にも挑戦できる、そんな恵まれた環境下であった。その自由な環境に憧れ家を出たとも言えるかも知れない。

身延山に行く度に立ち寄り、時には泊めてもらった丈六堂のそばにあった日蓮宗尼僧法団本部に、村上さんという私と同世代の女の事務員がいた。彼女と度々いろいろな話をする中で親しくなった。

女が出家するといえば、ほとんどが男女関係の縺れからであった。私のように家の災難を救うとか戦災の友を慰霊するなどという意志で持って出家する者はいなかった。そんな私の思いを察した村上さんは、本で読んだ一人の尼さんの名を教えてくれた。二人ともまだ若く知識は無かったのだが、日蓮宗の話は尽きないが、日蓮宗といえども各々考え方は違っていた。

人の生まれ育ちが違うために、同じ日蓮宗の信徒であっても考え方がかなり違うのだと考えた。後年、寺の関係者が集まる会でも私と同じような人はいなかった。出来るだけ、その様な会合へは出ないようにして、出ても話をしないように心がけしている所以である。

妻帯を認め寺に家族が住むようになった事が、僧侶の宗教観を変える転機になったと思う。家族が住む家の空間になった事が、本来の開かれるべき寺を閉鎖的な個人の空間にしてしまっている。

話をもどし出家の続きを書きます。私が師従すべき尼僧は川崎の妙法さんだという村上さんのアドバイスを受けて、私は妙法さんを訪ねた。小さい寺に三人ほど尼僧がおられた。妙法さんは私と対座して、無言の私に「この子は一筋なわではいかん子だ。霊感を持っているので、うかつな事は言えん」と言われた。私の出家の申し出に対して、檀家とも相談するから少し待てと言う。

寺の関係者に承諾を得て、妙秀と法名を頂いた。髪を剃った私に、妙法上人は「うちの女中さんに百貨店を案内させるから、欲しいものがあったら買ったらいいよ」と尼僧になりたての私に言った。私は、これから僧としての生活が始まるので、若き乙女に対しての温かい配慮かなと思い、素直に従った。

これまで幾度も百貨店には行き、不自由なく欲しいものを買い物していたのだが、その日の百貨店は違っていた。いつもとおりに品物が並んでいるのだが、欲しいと言う気が起きないのである。何を見ても欲しくなくなっていた自分に気づいた。

その時に、頭を剃るということの意味が少し分かった気がした。女の人が髪を剃るという事は、大変な事なのであると。生活苦や病気、失恋などの挫折から出家した尼僧の中でも、妙法上人は変わった経歴を持っていた。

上人は妾の子として生まれ、幼い時から病気の母を看病していた為に小学校すら行けなかった。学は全く無かった。

十八歳で結婚したが子宝に恵まれず二十歳で男の子を養子にもらったが、主人の稼ぎだけでは暮らせなくなり商売を始めた。アイスキャンデー屋であるが、最初の日は売れたが次の日からは全く売れなくなった。困ったあげく寺の住職に相談したら、その住職は「あんたは、子供には縁がないんだよ。そんな商売はやめて托鉢をしろ。弟子をつけてやるから」と言ったそうである。それを聞いて上人は、商売をやめて夫子供をも捨てて出家したという。

食品表示の不思議

藤井寺　笑美

私はスーパーなどで時間があれば買い物のついでに、どんな商品があるのか見て回るのが好きです。便利グッズはないのかなぁ～とか、新商品はないかしらとか・・・意識して見ていると意外な発見をすることがあり結構おもしろいものです。

以前から感じていたことですが、食品などを観察していると面白い表示やネーミングに気が付くことが多々あります。つい手を出してしまいそうになるくらい上手なうたい文句が表示されていて、興味を持つのと同時に疑問を感じます。

例えば、ジュースや菓子などの表示ですが、「ノンカロリー」「カロリーオフ」「シュガーレス」「砂糖不使用」「甘さ控えめ」「甘さすっきり」「微糖」「低糖」「糖分控えめ」「ダイエット」「ライト」等…。また味噌や漬物などの表示では、「塩分控えめ」「うす塩味」「減塩」「低塩」「うす塩」「あさ塩」「塩味控えめ」等、数えたらキリがないほど沢山の表現があるのを見かけます。いったいどの食品表示のものが多いのか少ないのか、良いのか悪いのか悩んでしまうことがあります。一般的に健康を考えて低カロリー志向、低糖志向、減塩志向になり、このような表示があると、何となく体にとって良さそうな感じがして、何も表示していないものより購買意欲がそそられてしまいます。

しかし、いったいどれがカロリーや糖分や塩分が一番少ないのでしょうか？　カロリーについて考えてみると、「ノンカロリー」や「カロリーオフ」、「ゼロカロリー」と表示していてもエネルギーがあったりします。実際のところ詳しい表示を見てみないとわかりません。

糖分表示では「甘さ控えめ」や「甘さすっきり」などの表現は、味を表現しただけで砂糖が少ないとは限らないのです。酸味など他の味と組み合わせて糖分が多く含まれていることもあります。「砂糖不使用」と言うのは、砂糖を加えていないと言う意味で、果糖やブドウ糖、ショ糖が含まれていることがあります。「低糖」「微糖」「糖分控えめ」などは糖分が少ないという事で量についてはわかりません。「無糖」「シュガーレス」などは糖分が含まれていないことを意味しますが、人工甘味料や合成甘味料、糖アルコールが使用されている場合があります。糖分が少ないからといってカロリーが低いとは言えないのです。

次に塩分表示ではどうでしょうか？

「減塩」という表示には一〇〇gあたりの塩分量の基準がありますが、「うす塩」「塩分控えめ」などは塩が少ない（低塩）であることを意味し、「塩味控えめ」「うす塩味」などの表現した言葉には基準がありませんから、実際のところ人の感覚だけのものでどれだけ入っているかわかりません。

食品にこのような表示があると心理的に食べても大丈夫、少しくらい多くとっても大丈夫と自分に納得させがちになります。安心してとっているとかえって量が多くなることもあり注意が必要です。カロリーが半分のカロリーハーフを選んでも、安心してしまい倍の量を食べると同じことになりますし、減塩した味噌汁を作っても二杯飲んだら同じ事です。

おもしろいもので、このような表現が使われている食品は、よく売れているような気がしますし、わたしもどちらかと言うとつい手にしてしまっているような気がします。食品表示・うたい文句の魔力だと思います。

ただ気をつけたいのは、このような表示は食品を選ぶ時の参考にはしても、できれば成分表示をしっかり見て食品選びをし、魔力にかからないようにしたいものです。

携帯エッセイ▼⑬

「路肩の花」

痴呆が進むにつれ、母は無口になった。しかし、路肩の花を見た時は、積極的に自らしゃべった。

母を車椅子に乗せて、病院や買い物などに連れて行く道すがら、母がポツリと言う。

「あれは、さざんかですか？」

私は路肩に視線を落とす。

「そうですね」

と応える。

「綺麗ですなぁ」

と母が言う。

梅雨時になると

「紫陽花ですか？」

「そうです」

「綺麗ですなぁ」

夏になると

「朝顔ですか」

「そうです」

「綺麗ですなぁ」

母の話し方は、老いとともに疑問形に変わった。自分の記憶力に自信が持てなくなってきたからだろう。

しかし、痴呆が進んでも、花の名前は比較的、よく覚えていた。

きっと母は花に命を感じていたのだろう、と思う。

介護を経験して、私は花や植物に関心を持つようになった。時折、しゃがんで路肩の花を見つめたり、匂いを嗅いだりする。クチナシが良い匂いがするのも初めて知った。

いま、職場では観葉植物を育てている。空気がきれいになるし、緑の葉を見るとホッとする。

時々、水を遣るのを忘れて枯らしてしまう。そんな時、

「悪いことをしたなぁ」と植物に謝る。また、枯れたと思っていたら、新芽を出す時もある。そんな時は、

「おう、生きていたのか。これからは気をつけるよ」と心で話しかける。

植物はものは言わぬが生きている。それだけではない。それを育てている人の姿も映し出している。職場の観葉植物は私自身なのだ、と思うようになった。(龍)

サラリーマン・エッセイ⑲

選挙に行こう

明石幸次郎

いよいよ総選挙が公示され、来る八月三十日（日）が投票日と決まり、衆議院は解散しました。マスコミは既に自民党の大敗、民主党の勝利を予想して、政権交代は間違いないとして、後は民主党が過半数を取るかどうかは投票率によると報道しています。それは、今まで政治に関心もなく、況してや選挙投票にも行ったことがない若者が、投票所に行くかで、民主党が大勝するかどうか決まる、政治的無関心層がどう動くかで選挙のゆくえが決まると推測しています。

確かに二十歳代の若者の総選挙の投票率は平成八年（３６・４％）、十二年（３８・３％）、十五年（３５・６％）と３０％台の低い数字で推移しています。一方、世代別では一番の高投票率である六十歳代はそれぞれ、７７・３％、７９・２％、７７・９％と８０％近い投票率です。この数字の違いは倍ほどとなっています。投票に対する意識は二十歳代は個人の自由をあげています。それは、裏返すと選挙に行かない自由もあるということですね。一方、六十歳代は義務をあげて、選挙は国民の義務だから行かなければならないという意識ですね。ここにはっきりとした、世代間の意識の違いが現れて、二十歳代は何故、選挙に行かないかの理由として、面倒臭い、政治に関心が無い、用事がある、誰を選んでも政治は変わらない、現状に満足していることをあげています。この背景には、時代的、教育的な違いがあるようです。

自民党は選挙動向をリサーチした訳ではない？と思いますが、自民党に投票してくれるのは農村、利害団体、都市中高年として、投票に来ない、自民党に入れない不特定多数の若者には無策で、ほったらかし、反対に、投票してくれる中高年、特に高齢者の福祉等には力を入れて、若者よりは何かと中高年により厚い施策を行って来たことは財源の配分を見ても事実です。

そう言えば、自民党の影の重鎮と自称している、元首相の森さんが以前、投票日は天気が良いほうが自民党に有利だ。若者は遊びに行き、投票に来ないからだーーと本音？を漏らしたことがありました。(若者の浮動票が野党に流れると自民投票が相対的に減るという理由です）余談ですが、この御仁は今でも正直というか、体重の割には麻生さんと同じくらい頭の中が軽いからか？よくこの類の失言をされています。いつぞやは大阪での選挙演説の際、「大阪はタン壷だ」と発言され、大阪の町をもっときれいにせよと、本人は大阪人を奮起させるつもりが、ご本人の趣旨？が伝わらず、反対に大阪人の怒りを大いに招いたこともありました。

今回は、今まで政策的にほったらかしにされた若者が未曾有の不況の中で、真っ先に経済的被害を受けました。大企業の無責任な非正社員の首切り、失業増大（ハローワークにあふれる若者）、中小企業は正社員であっても年収の大幅ダウン、赤字でボーナス無し、又、社会保険料は天引きできっちり取られるが、杜撰な社会保険庁の基金の管理体制で、自分達の将来の年金は貰えるのか等の不安と怒りなどで、官僚主導自民党政治にノーと多くは投票するだろうと言うのが自民大敗の予測理由です。又、中高年も同様に年金問題で払ったものが年金記録に残っていない、事業主と結託して故意に会社負担額を少なく納めさせるなどで本来貰える年金が少なくされてしまうなど、社会保険庁体質、歴代の旧厚生大臣の官僚お任せ体制の杜撰さが天下に周知になり、年金しか頼る術のな

い中高年の将来の生活の不安感を煽りました。更には、自分達が払った税金が各省の多くの無駄づかいに使われた事実。自分たちの天下り先の為に作った外郭団体の増殖、それをチェック出来なかった自民党、公明党の与党の政治不在を、中高年が今回は政権交代を望み、特に中高年女性票は、小沢さんは嫌いだが鳩山さんならーーということで民主党に流れると予想している世論調査もあるようです。選挙の結果はどうなるのかは、神のみぞ知るですが、日本人の変化は遅いですが、変化するときは一度に変わる特性を持っています。今回の総選挙はどうもこの特性が発揮され、変化する節目のような気がします。

政治家のレベルは国民のレベルを反映していると言われます。政治家のレベルを上げる為には、何よりも我々国民が政治に関心を持ち、我々自身のレベルをもっと上げなければなりません。それは、大阪府民が選んだ知事のレベルを見れば良く分かります。以前のノック、太田知事時代と今の橋下知事と比べれば、大阪府は教育のあり方、税金の使い方、地方自治、府財政の大幅な改善、政府に対する正当な要求、府職員との対応等で歴然とした違いを出しています。これも大阪府民が学習をして、橋下さんを知事に選び、政治的レベルを上げて来たからではないかと思います。又、政治家である橋下さんが知事が持つ政治力で大阪を変えて、行使する政治力の違いで、どのように大阪が変わるかということを府民のみならず、特に政治的関心の薄い若い国民に見せているのではないでしょうか。

俳句

○ 赤子ふえ花筵少し大を買う　養女

○ 孫世話で娘とくらす春短か

○ 嬰児顔じじ似かばば似か初夏の朝　直子

○ 椅子堅き坊ちゃん列車風薫る

○ 柳葉とぶ旅順はいまだ基地の街

（「坂の上の雲」の地を訪ねて）

脳死を考える

お袋を自宅で介護するようになって六年、訪問看護の担当がはじめて代わった。雰囲気もがらりと変わる。齢およそ四十くらい、よくしゃべりよく笑う明るい女性だ。

慣れるにしたがって、プライベートな家族のことなどが話題にのぼるようになる。先月、臓器移植法の改正案（A案）が参院でも可決された翌日、ちょうど訪問看護の日だった。彼女は脳死について、中学一年生の息子と話をしたという。

彼女は五年前、四歳の娘を脳腫瘍で亡くしている。

娘が三歳のとき、頭が痛いと訴えた。小児科へ連れて行ったが、薬を出す程度の診察で終わった。どうしても気にかかるので、総合病院で頭をCTスキャンしてもらったところ、腫瘍が脳幹部にまで達しようとしていたという。あと半年の命と宣告された。

半年が一年になるのだが、死の瞬間までつきそった。いや死後も寄りそっていたらしい。娘の死を簡単には受けいれることができなかったのだ。一年くらいはお骨も手離すことができなかった。

「あんなつらいこと、もうないと思う」という彼女に、少しためらいがあったが、訊いた。「もし臓器提供を勧められたら？」。「娘の身体を切り刻んで臓器を取りだすなんて、考えられないし、考えたくもない」と即座に答えた。中学生の息子は顔をしかめて「いやだ」といったという。

作家の渡辺淳一が「心臓移植を受けなければ死んでいく子どもが年間二、三〇〇人もいる現実を忘れるべきではない。医学が進歩し技術がありながら、先進諸国の中で日本だけが見殺しにしている」といっている。

心臓移植を受けるためには、心臓を提供する人がいなければならない。渡辺は、四歳の娘を亡くした母親の深い悲しみ、その死を受けいれるのにどれほどつらい日々を積み重ねが必要だったかという想像力が、ほんとうにこれが作家なのかと疑いたくなるほど欠如している。「二、三〇〇人」というくくり方、また「見殺し」という言葉の使い方の無神経さにそれはよくあらわれている。

移植以外の方法では救えない命がある。その命を救う前提条件として、臓器提供をする側の死がある。この両者が納得いくような解決なんてあろうはずがない。二律背反だ。

俺には納得できないのだ。死を前提とした臓器移植は、医療と呼べるものなのだろうか。（猿）

趣味のいろいろ

私には、趣味が十ほどあります。第一は字を書くこと。仕事柄、筆をもつことが多いので、いつも机の上に硯と墨が置いてあります。寺の用事は筆と墨と紙が欠かせないのです。主人が亡くなってからは、私が代わって筆で書く機会が多くなりました。また年に五、六回、寺の行事を看板に書くのですが、たいへん緊張します。

檀家さんの法名を書くことも多い。法名は宗旨によって違います。私の寺は浄土真宗ですので、お釈迦さまの弟子となったという意味で、俗名の頭に「釋」の一字を付した法名がおくられます。私は良子という名前ですので、ご本山で「おかみそり」をいただいて僧侶の資格を得たとき、釋良恵という法名が授けられました。

あるとき檀家さんの集まりの席で「写経をなさりたい方があれば、ご一緒しませんか」と呼びかけたところ、「ぜひに」とおっしゃる奥さま方が八人ほど手をあげたのです。それから週一度集まって、浄土教典や正信偈などのお経を横に置いて、その経文を筆で写すようになりました。誰かが指導するということのない気軽な集まりで、十年間つづきました。とても良い精神修養になったと思います。

お寺の本堂を盆景のお稽古にお貸ししていたことがあります。私は忙しくしていたのですが、都合のつくときには盆景のお稽古を見たり参加させていただいたりしました。そのうちに、砂や土などをつかってお盆の上に風景を創っていくという趣にすっかり魅了されて、自分も本格的に習いたくなったのです。

土をこねて山をすえ、川をへらでつくってゆく。色彩をそえて山川草木の景色を形づくります。時間があれば、山のかたちを変えたり森をつくったりしました。造景というものに夢中になっていたのです。盆景のお免状をいただいたこともありました。

そんな私に盆景を習いたいと近所の方が五人ほどあり、お弟子さんを迎えることにもなったのです。お参りを午前中に済ませ午後は盆景を楽しむという日を週に一度もうけました。忙しくても、盆景のお稽古は楽しいので欠かしません。お友だちも増えてきました。お寺関係でいろいろと引っ張り出されて大忙しとなっても、最初に決めたペースを守り、盆景のお稽古は十年つづきました。お弟子さんがお免状をもらうほどにもなったのです。

盆景に似た盆石は三十年つづけました。盆景と同じように盆の上に景色をつくります。お盆の上に、一号から九号までである九種の白砂を敷き、大小の山のかたちを模した石を配します。石のまわりには人家や草木を小さい刷毛や筆で描き、海の波や川の流れを白砂で表現していきます。ていねいに手をかけて盆上に自然を造形していくのです。この趣のある盆石を長くお稽古したお陰で、皇石という号で免状をもらいました。今年の三月までお稽古に通っていましたが、だんだん階段の登り下りに自信がなくなりましたので、残念ながら中止いたしました。

扇面に絵を書くことも好きで、手先を動かして今でも製作しております。

絹針に糸が通せますので、自分の洋服もつくっております。戦争中は女学校で身につけた洋裁の技術が役だって、近所の人や疎開先の人たちからたのまれて洋服を縫製したものです。妹たちの洋服を成長にあわせて作り、喜んでもらいました。人形つくりも好きで土の人形をいろいろ作りました。

生活が忙しく、お寺仕事に追われると細工物に凝ることができないのが残念ですが、知人の展覧会には欠かさず足を運びます。ある展覧会で松の盆栽が一鉢十万円もすると聞いて、私も盆栽作りをはじめたのです。先生に教えてもらって、大小の松の盆栽をいく鉢かつくりました。出来は、われながら感心するくらいよい仕上がりで、三人の子どもに二鉢づつ贈りました。

書や墨彩画、墨絵など描いて、掛け軸をつくったりもしました。家にぎやかに置かれた置物・細工物などはほとんど私の手作りです。いま私の部屋には孫の書いた写経を掛けてありますが、私の写経はお経を写すのみで、大きな軸にする勇気はありません。

「竹に雀」「楼閣山水」など何回もお稽古して書いた軸物は懐かしい記念品です。忙しい合間に夢中になって、書いたり描いたり創ったり編んだりと、そんな情熱が身体に満ちていた頃を懐かしく思い出します。

もうあの頃には二度とかえれない。皺が深くなった手を見ると、少し情けない気になります。いつまでも元気でおれたらいいのですけれど、明日はどうなるか頼りなくなって、寂しく空を見上げるこの頃です。

このような細かな趣味ができなくなっても、花を育てるという趣味が私にはあります。花に水をやり花を咲かすこと、その花を活けることも楽しみです。目下バラの花を咲かせていますが、小さな虫が花や葉について虫だらけになるので、気が抜けません。花の世話をし庭の手入れをする、そんな毎日を楽しんでおります。

連載　女８０年の軌跡　眞粧さん

かるたというゲーム

ぼつぼつ身辺整理といくか。ほんの少し体の調子が悪いと、こんな気持ちになる。

タンスを開けてビックリ、小引き出しには、百人一首から、いろはかるた、犬棒かるたもある。

第一句は「犬も歩けば棒に当たる」。「老いては子に従え」「背に腹は代えられぬ」「子は三界の首枷」…。

私の世代はみんな知っているので使い勝手のよい楽しくて為になるゲームだが、現代の人達にはピンとこないだろうな？

「俳聖かるた」

何んでそんなもん買うの、と笑われた俳聖かるた。「十七年四月七日、老人会旅行・伊賀上野城で」と明記してある。芭蕉、去来、蕪村、一茶などの俳人が詠んだ俳句かるただ。

古池や蛙とびこむ水の音　芭蕉

柿主や梢はちかき嵐山　去来

春の海ひねもすのたりのたりかな　芭蕉

我と来て遊べや親のない雀　一茶

やせ蛙負けるな一茶これにあり　一茶

雀の子そこのけそこのけお馬が通る　一茶

「兵庫ふるさとかるた」（同窓会にて）

「水分かれ」の水は瀬戸内　日本海

（氷上郡氷上町石生に「水分かれ」と呼ばれる中央分水嶺があり、日本一低い中央分水嶺）

よい米と　水が育てた灘の酒

（原料は山田錦という米、水は六甲山からわき出る地下水で宮水と呼ばれている）

手になじむ　筆をみやげに有馬の湯

（有馬の人形筆や竹細工、炭酸せんべいなど。日本で一番古い温泉で今もにぎわっている）

「たかつきカルタ」（宇津木秀甫作きりえ）

日蓮宗　九カ寺がそろそろ五領村

ろとかいをこぐ船頭のうた淀川三十石船歌

芥川にでたおかご幽霊

くす、けやき有名な木がおおい高槻市

ポンポン山のてんぐ杉

むすめにばけたおばあさん夜明けまで

盆おどり

淀川べりの唐崎に淀川からあがってきたというお地蔵さんがあって、りっぱなお堂がたっている。ここの盆おどりは昔ながらの有名で、夜通しおどって、明けがたに、夜明け音頭を踊りまくる。短い音頭で踊りは軽い足どりで踊って夜明けまで楽しむ。一度見にゆきたいもの。

かるたは時代を映すといわれ、言葉づかいや絵の表現も、意味までも変わったものがある。

いろはかるたには、短い詩句の中にさまざまな世渡り術、知恵がぎっしり詰まっていて大人も子供も楽しめる文化だし心をつなぐ場であればと願っている。

政治家に望む

有権者は政治や行政に対してシビアな目をもっている。一部に政治に期待しても何ら変わりはしない、という人もいる。国会などでも、見苦しい足の引っ張り合い、ののしり合い、野次がとび、見ていられるものでない。駅前、集会所などで政治家が演説をしている姿をみかけるが、政治家の一方的な話だけ。巾広い国民の声を吸い上げる、そんな態度は見えてこない。

失敗はもちろん、ちょっとしたスキャンダルも命取りになる。問題を解決しようとせず相手の「失策」によって得点を重ねようという姿勢が見え見えである。国民のために議論しているなどとは思えない。

自分達がなぜ政治を志したのか、原点にかえって考えて欲しい。国民の幸せを第一に、わかりやすく政治を語り、声を形にして実行する政治を心から望んでいる。

編集後記

いよいよ選挙です。歴史的な政権交代が初めて出来そうです。日本の議会制度が本当に国民の意思で動き出す始まりの第一歩になりそうです。野党が圧勝した後に出来る政権は、国民生活の福祉を最優先するはずです。そして、この流れは益々大きな流れになるでしょう。

芥川商店街催し

☆☆☆

残暑お見舞い申し上げます

9月7（月）8（火）9（水）

「秋のコートお仕立セール」

着物のままお持ちください。

※　お似合いのデザイン

を提案させていただきます

盆休みは8月16日～20日迄

着物から服を仕立てます

梵～ぼん～